



むらさき会だより

No. 8

平成16年 9月 1日

山村学園むらさき会



校歌

一、富士の高嶺の白妙を
雲のあなたに仰ぎつゝ、
学びの道を踏みわけて
やがて極めんいただきを
名は山村よ我等の学舎

二、清き流れの大利根や
行く手は遠く広くとも
教えの海に漕ぎ出でて
底の真珠を探りなん
名は山村よ我等の学舎

三、初雁おとのお武蔵野に
葉におう藤の花
理想を高くかざしつゝ、
いざや進まん諸共に
名は山村よ我等の学舎

ご挨拶

山村学園むらさき会

会長 田中久子

川越プリンスホテルに会場を移してから総会も今年で十回、山村学園むらさき会と改称して七年、大勢の会員の出席を願いつつながら役員一同、毎年協議を重ねて参りました。

今年五月三十日にむらさき会総会も歴史と伝統ある学園を思

山村女子高等学校

(現在の山村国際高等学校)

開校当時の思い出



山村学園 理事長

山村 寛先生

昭和二十三年に当時の文部省は高等学校設置基準を公布し、いままでの中等学校を高等学校への移行がなされました。本学園の川越高等家政女学校は設置基準に満たないため、各種学校に格付けされてしまいました。ゆえにこのままでは将来大きな発展は望めないし、更に在校生・保護者・卒業生などからの要望もあり、なんとか高等学校にしなればの思いも強くありました。川越市内に土地を求めるだけの財力もなく、公有地

をせるように、幅広い年代の方々の参加に華やいだ雰囲気の中で行われました。

久しぶりの再会に、学園の思い出話、近況報告と、そして恩師を囲んでの笑顔は本当にお偉い。着実に伝統を築き上げ母校の創立八十周年という節目を迎えました。将来に向けて、むらさき会会員は、これからも支援していきたいと思えます。

ならばの願いをもって関東財務局川越出張所を訊ねてみました。そこには、戦争中に上福岡の火工廠で生徒がお世話になった斉藤氏が所長をしていました。そして、ゆえに面識があったので学校の現状を説明いたしました。斉藤氏は公有地について探してくれた結果、当時の坂戸町にあった旧陸軍の飛行場跡地を紹介してくださいました。

現地を訪れたゆえに、広漠とした飛行場跡地をみて、言葉が発することができませんでした。はたして、生徒が来てくれるだろうか不安でした。その時、ゆえに父の忠告が言った一言により学校建設を決意いたしました。

昭和二十六年四月一日、待望の山村女子高等学校が開校いた

しました。学園理事長・校長・教頭そして十八名の教諭・講師の先生方。生徒は新一年生 三十四名・川越高等家政女学校より編入した二年生 十一名・三年生 四十五名の計九十名により、新しい高等学校での教育が始まりました。(「学校はわがいのち」より抜粋)

当時の坂戸町は人口も少なく、東上線も川越市より下りは、電車も三輛編成で一時間に一本走り走っておりませんでした。木造の坂戸駅を下りて学校までの道路は舗装されていませんでしたので、雨が降ると水溜まりが出来て自動車とすれちがう時は大変でした。

事務室で使う電話も、ハンドルを回して受話器をはずし交換手呼び出し、相手の番号を言っていないでもらいます。市外にかけるときには相手の番号を言うてから、一旦受話器を元にもどし交換手の呼び出しを待ちます。先生方も教材や試験問題はガリ版を使いロー原紙に鉄筆で書き、手刷りの印刷機を使いました。

ここで当時三年生に在学した大山佳子(旧姓平野)さんに思い出を書いていただきましたので載せます。

「みんなで持ち寄った植木」
新校舎は木造で、中央の玄関をはさんで右側に職員室・普通

教室三部屋・昇降口・トイレがあり、左側に校長室・特別教室三部屋があり、校舎の周りにはなにもありません。当時の学園長山村要二先生が生徒によびかけ「家にある庭木でよいのです。一人一本づつ持って来てほしい」と話されました。私は、父に依頼して銀まさきをリヤカーで運んでもらいました。友達も、梅の木、かえで、椿などの樹木を持ちこみました。これを園長先生は一本、一本植えられて新校舎の環境が整いました。

校門を入る時は一礼、帰校時も振り返って一礼、この新校舎に学ぶ生徒の姿勢があったように思います。

「校舎の周りは草花」

校門から玄関に続く両側には、かわいい黄色のマリーゴールド、真っ赤なカンナなど要二先生が植えられた花でいっぱいでした。荒地に良く根ざり長く咲きつづけるこれらの花は要二先生の花運びの手腕の一つでもあったように思われます。

「花壇作り」

各教室の前の花壇にはいつも草花でいっぱいでした。暑さ寒さのなか、手入れをされておられる要二先生のお姿が目の前に浮かんできます。私達も花壇の草取りを放課後にはいたしました。

「校庭の草取り」

どこと違って草の生えない所はありません。生徒全員で横一列に並び草取りです。あつという間にきれいになりました。ものごとは大勢ですれば偉大な力を発揮できる喜びを知ることが

きました。

「雨の日の朝礼」

まだ体育館も講堂もないので雨の日の朝礼は教室の前の廊下に整列、中央にぬみよ先生は椅子を台にしてお話します。「皆さんのような志をもった生徒が一人でも多くこの学校に入学し、坂戸駅から学校まで山村女子高等学校に通学する生徒であふれるようにしたい。ですから皆さんも胸を張り勉学に励んでほしい」と話されたことが思い出されます。

「床磨きは縄だわしで心も磨け」

床磨きは縄だわしを使ってゴシゴシと磨きました。磨くと床がピカピカになります。いつ見ても長い廊下そして渡り板は光っていました。人間は技術だけ身につけたのではだめです。心を磨き色々な物事の考えかたの出来る人間になります。と指導されました。

昭和四十二年新校舎落成。昭和五十四年防音校舎建築のために、開校当時の木造校舎



と昭和三十三年に落成した講堂は解体されましたので、昔をしのぶ建物は写真で見るとなっていました。

第三十二回 むらさき会総会を終えて

未来の孫に…

島田 みち子 (旧姓 島村)

「埼玉のお母さん、ただいま。」元気な声と共に、しばし玄関で抱擁？ 八年前、山村国際高校の留学生として、我家の一人娘と共に通学していた青い目のもう一人の娘、カースティンである。日本びいきの彼女は、一旦、母国のニュージーランドに帰国したものの、すぐ日本に戻り、日本の大学で学び、この就職難に日本で就職して四年目。りっぱにマイライフをエンジョイしているのである。そして前ぶれもなく我家に「ただいま。」と帰って来ては、私の下手な料理と、今は母親になった娘と共に、姉妹のように過ごすのです。先日も台風のようにやって来て、地域のイベント中であつた菖蒲まつりにくり出して「日本のアイリス、きれーい。」などと歓声を上げておりました。

長年続くこの友情は、いったい何なのでしようか？ 私なりに考えた時、その礎に若くして留学生として日本で過ごし、共に勉学に励んだ日々と、山村学園の教育方針が影響しているのではないかと思われまふ。我家は伯母四人、妹、娘、姪も卒業生です。いつの間にか「山村魂」が引き継がれ、それぞれが幸せに過ごさせて頂いております。この二人を見ていると、学園の世

界に通用する教育理念、3つのC、Challenge・Cosmos・Communicationが生徒の時だけでなく、今も、生活の中にしっかり生き続けているのを感じます。

先日も、むらさき会総会終了後、亡き、要二先生、ぬみよ先生の墓参をさせて頂きました。今さらにして、学園にお世話になって良かったと感謝の思いがわく一日でした。数年後には、青い目の孫が入学するのではないかと夢は大きく膨らみます。

むらさき会の発展と山村学園の益々の御発展を祈念いたしましてペンを置かせて頂きます。



今、「むらさき会」に思うこと

横山 芳江 (旧姓 島村)
昭和五十五年商業科卒業

私が、むらさき会に出席するようになりしたのは、姉から誘われたのがきっかけでした。それまでは、総会・同窓会が毎年行われているのを知りませんでした。当時は、まだ子供が小さかったので、子連れで行くと皆様に迷惑をおかけするのではないかと思いつながら出席したのですが、会員の皆様に、大変温かく迎えられ、我が子に声をかけて頂いたりして、とてもありがたく感じました。それから、一度出席しますと、毎年事務局の方から往復ハガキが届きますので、同級生とも誘い合ったりして、都合のつく限り出席させて頂いております。我が子も楽しかったらしく、「ママの高校の同窓会に行きたい。」と言って、今のところついて来ます。

又、今は亡きゆみよ先生がいらした頃は、同窓会の出席者に、「よくいらっしやいましたね、お久しぶりです。」と必ず声をかけてくださいました。それは、車椅子に乗るようになられても、各テーブルを廻り、個々にごあいさつしてくださる姿勢は変わりませんでした。私は、ゆみよ先生の行き届いた女性らしいお心配りに、いつも敬服致しております。そして、今でも同窓会に出席するたびに、ゆみよ先生がこやかに笑って、前の方の席に座っていらっしゃる様な気が致します。



今年、何年か振りに出席させて頂きました折、教頭先生がいらして、先生は私共が在学中に新任として来られた先生で、大変懐かしくお話をさせて頂きました。先生のご活躍ぶりを目の当たりにして、とてもうれしく思いました。今後はさらに、教職員の先生方にも多数ご出席して頂けたらと、切に願います。お忙しいとは存じますが、お会いできるのを楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

終わりに、山村学園の益々のご発展と、諸先生方、役員の皆様、むらさき会会員の皆様方のご健康・ご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

師の君よ とこしえに

内藤 清子

山村ゆみよ先生は、山梨のご出身で、お目にかかる度に、幼い頃の「親友」のお話をなさっておられました。私達四人のグループが、お訪ねするときは、おやさしいほほ笑みと温かなお心づかいで迎えて下さいました。「いつまでも友情を大切にネ。」とおっしゃって、四人の笑顔を、楽しげに眺めておられました。そして、ふふると「お話しになると、富士の山が美しい」「みさか峠」の光景が、目に浮かぶように話されました。

「私はね、秋になると、富士山が美しい」「みさか峠」を訪ねて、峠の茶屋で「ほうとう」を食べて、ぶどうを食べるの。そして富士山を眺めるの。」

「みさか峠の富士山が一番好きなの。」

「秋になったら、皆でいっしょに行きましょうネ。」

私達は、子供のよう、指きりゲンマンをして……

その翌月の早朝でした。悲報の電話が……

先月、お逢いしたとき、とてもお元気で、「みさか峠」のお話しを楽しそうに、語っておられたのに……信じられぬ思いでした。

いく度か、ぶどうの実る秋は往った。そして、私達は、先生とお約束した「みさか峠」に、その想いをたどって訪れたのは春でしたけれど、峠の茶屋で「ほうとう」を食べた。峠の春は明るく、花々が美しかった。

目前の富士の山に向かって合掌して「師の君よ とこしえに」を皆で歌った。

私のつたない詩を皆が唄ってくれたので、私は、とても嬉しかった。

四季はめぐり、今年もあの「みさか峠」に清らかな、「富士の山」と、野の小道の愛らしい花々が、浄土に逝かれた師の君に、たむけられる事でしょう。

むらさき会役員になりました

横手 さゆり
山村国際高校十五年度卒業生

私は、むらさき会の同窓会の受付の手伝いをしました。昔の卒業生の方々が、大勢参加していました。時は過ぎて、も友情は変わらないことを教えていただきました。また、年を重ねても私たちがのように変わらぬグループのようなものがあり、「○○さんと一緒にいいわ」などと言って、少し驚きました。私は受付などという仕事を初めてやったので、初めの方は本当に大変でした。しかし、一緒にやっていた仲間たちと助け合い、スムーズにやれることができました。母校である山村国際高等学校のつながりを持つためにも、またの機会もぜひやりたいと思います。そして、私たちがこれからどんどん年を重ねていっても、山村国際高等学校の卒業生ということに誇りを持っていきたいと思います。

卒業生として、今思うこと

小島 美香

山村国際高校十五年卒業生

先日、山村学園の同窓会に受付として参加してもらい、八十周年を迎えた山村学園の歴史の深さに驚きました。また、たくさんの卒業生が集まり、高校時代を思いだし、楽しそうに語り合っている姿を見て、私もいくつになってもこんな風につながっていられるよう、友達を大切にしようと思えました。たった三年間の高校生活ですが、そこでできた友人が十年、二十年と自分の支えとしていてくれるのは、とても素敵だと思いました。創立者の方への感謝を忘れぬよう集うことで改めて山村学園の生徒として誇りがもてるように感じました。

私は山村国際高校での三年間でたくさんのことを学び、ここでの三年間があったからこそ、今の自分があるのだと、今回、同窓会に参加することで改めて実感しました。この気持ちを忘れず、これからも山村学園の卒業生として頑張っていきたいと思えます。

来年のむらさき会総会は

五月二十八日(土)

十一時開会

会場 川越プリンスホテル

山村学園短期大学の

近況について

山村学園短期大学
学長 山村 健 先生

山村学園短期大学は平成元年に国際文化科として開学いたしました。以後本学をとりまく諸状況の変化に対応して、各種奨学生制度や留学生制度の導入をしてきました。

ひきつづいて平成十四年度には、骨太の保育士の養成を合言葉として、あらたに保育学科をスタートさせ、教職員の知恵と努力のおかげで今春は第一期生を世に送り出しました。就職率一〇〇%という当初の念願を達成するところができましたのも、皆さん方の応援の賜と深く感謝しております。また、コミュニケーション学科につきましても、日本人学生・留学生ともに一〇〇%の希望進路達成を果たすことができました。

これに加えて今年の春より幼稚園教諭二種免許取得の認定も受けることができ、保育学科におきましては、保育士と幼稚園教諭のふたつの免許を同時に取得することが可能となり、またコミュニケーション学科におきましても、所定の卒業単位に加えて、幼稚園教諭

も併せて取得することが可能となり、目下学生たちはこの課題に積極的に取り組んでいるのが現状です。

以上が本学の近況です。本学をとりまく諸状況は、依然としてはげしく変転していますが、この変化を先取りして、今後とも教職員一丸となって新しい可能性を求めて積極的にチャレンジしていく所存でありますので、今後ともよろしくご指導とご支援のほどを心よりお願いいたします。

追記 短大の入口のあたりが一変しました。広いバスの回転広場としゃ

れた屋根つきの待合所ができました。学生たちにも人気です。

在校生より

保育学科一年 小野寺 珠里
(山村国際高校卒業)

保育学科では、今年度より「幼稚園教諭二種免許」も取得できるようになりました。日本国憲法や教職概論などの授業も増え、毎日忙しい気もしますがとても充実した学校生活を送っています。

六月には木工体験実習に行き、糸のこを使ってパズルやだるま落としなどのおもちゃを作りました。また、七月の七夕会ではオペレッタや合奏、合唱などクラスごとの発表と、四月から七月

生まれの誕生日会をやりました。手作りのパスポートカードと首飾りなどをプレゼントして、みんなでハッピーバースデーの歌を歌いました。他の大学では経験できないことだと思うし、大満足な一日でした。

これから、動物園飼育体験実習や里山保全体験実習、保育実習、教育実習、施設実習などのたくさんの実習があります。これらの実習でたくさんの方のことを学び、吸収するために机上の勉強に日々励んでいます。

コミュニケーション学科一年 木村 徳美
(山村国際高校卒業)

私は、山村国際高校で充実した三年間を送りました。特に最後の一年間が楽しかったです。行事一つ一つに力を入れ、クラスが一つになり、体育祭では優勝、文化祭ではクラスでソーラン節などを踊りました。授業中は、笑いがおこるような、とてもにぎやかなクラスでした。部活動ではバスケットに入り、みんなで楽しく真剣に練習していました。最後の一年は受験など辛い事もあったけど、いい思い出がたくさんできました。

私は山村学園短期大学で、心理学や英語を勉強しています。心理学に興味があり、授業で社会心理学を勉強しています。思ったより難しく、とても深いものだと感じました。後期からはピアヘルパーの授業もやり、心理学の深さや重みをもっと感じたいと思います。

山村女子高校だより



山村女子高等学校
校長 下田宏吉 先生

先日はむらさき会総会にお招きいただき感謝申し上げます。多数の同窓生が年代を超えて一同に会し、その若々しい皆様のお姿とご活躍ぶりを拝見して大変嬉しく感じ入りました。また、更に皆様方の団結力にも改めて長い伝統に裏打ちされた創始者山村ゆみよ先生の女子教育の精神をかいま見たような思いでございました。

昨年は学園創立八十周年として式典も盛大に挙行され、各界より本学園に對する高い評価をいただきました。これも同窓生の温かな励ましがあったからと感謝しここに厚く御礼申し上げます。

さて、山村女子高校はより一層の飛躍・発展に向けてとどまることなく新しいことに挑戦してまいりました。その結果、昨年度は全ての教育活動において大いに成果を上げることが出来ました。特に学習面では、土曜ゼミ等により大学進学の実績も今までにはない国公立大学をはじめとした難関私大など多数の合格者を出すことが出来ました。また今年度からは全校生徒の参加

による「土曜講座」として、生徒の目的にあった四つのコースによるさまざまな講座を開設して学習する機会を増やしました。また部活動においてもその活躍には目覚ましいものがありました。先生方の熱心な指導によりそれぞれの部活において素晴らしい成果をあげることが出来ました。ラクロス部の関東大会準優勝をはじめ、バトン部・ダンス部の昨年に続き全日本大会連続出場、そしてバスケット部のインターハイ連続出場を決めるなど、今後の活躍が大いに期待されます。

山村女子高校は、現在大きく変わりました。そして今、未来を見据えて輝いています。先輩の方々が築いて下さった良き伝統を大切にしながら、今まさに大きく「飛躍」しようとしています。生徒一人ひとりが「志」を高く掲げて将来の目標実現に向けて大きく羽ばたいています。そして高校生活を通して生徒の皆さんが豊かな人間性を養って行ってくれることを願っています。私はこれからも微力ながら本校発展のために尽くす覚悟です。むらさき会の皆様におかれましても今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。



「山国」の生徒に望むこと



山村国際高等学校
校長 石川富夫 先生

一 良心に恥じない生き方
社会経済生産本部が、今年四月にまとめた平成十六年度新入社員意識調査によると、「自分の良心に反する仕事でも、指示通りに行動する」と回答した人は、初めて四割を超えたとの事です。

自分の勤務する会社がいつ倒産するか、自分がいつリストラに会うか、厳しい状況の中で働かざるを得ない、新入社員の心の在りようが如実に示されたアンケート結果であります。新入社員といえば、正義感に溢れ、自分の良心に従って、仕事を通して社会に貢献したい、と考えるのが自然であります。そのことが許されない、会社に妥協し、勤めざるを得ない、新入社員があまりに気の毒であります。

私は、日本の社会に、会社に、若者達が「良心に恥じない」仕事が出来ることが一日も早く来ることを願っています。そのような社会を一日も早く作ることが、私達大人の責務と考えています。

そこで、「山国」の生徒に願うこと

は、今の時代の悪弊に染まることなく、いかなる時代が来ようとも、高い志を持って、良心に恥じない生き方を貫いて欲しいということです。

二 勉強とは

昨年の十一月の新聞に、アフガニスタンの子ども達の記事が載っていました。戦争で極度に疲弊した国、アフガニスタンの。その国の子ども達の現状を伝えた記事です。「紙きれに友達の国語の教科書から内容を写し取り、熱心に読み上げている子ども達」。私はその記事を読み、目頭が熱くなりました。勉強とは、私は次のように考えています。勉強とは、自分の中に隠れているよい資質を磨くことであると。自分を磨き、自分を生かし、周りの人達を少しでも仕合わせにする、それが「勉強」ということであります。「山国」の生徒達も、そうした意味での、本来の勉強に努めて欲しい、また、そうさせるために私達は更に頑張らなければいけないと、決意を新たにしました次第であります。

終わりに、「むらさき会」の益々のご発展と、会員の皆様の益々のご健康をご祈念すると共に、今後とも変わらぬ、本校に對するご支援を賜りますようお願い申し上げます。

山村国際高等学校

一学年主任 加藤 幸江 先生

むらさき会会員の皆様、お元気でいらっしゃいますか。

第三十二回同窓会総会に出席させていただきました。大変ありがとうございます。

伝統ある山村学園むらさき会への出席は、今回で二度目になります。人生の大先輩の方々と今年新しく会員になった皆様と共に、楽しい時間を過ごすことが出来たこと、大変うれしく思っております。

創設者の山村めみよ先生が大正十一年に、山村裁縫手芸伝習所を開設し、以来多くの卒業生が学園から巣立ち、実社会で活躍をなさっています。八十年以上の歴史を重ねて来た中には、同窓生の数だけ思い出があります。そして話すほどに蘇る青春が一人一人にあるはずです。なつかしい思い出、友との友情、そして先生と生徒との温かい交流話はつきないと思います。これからも同窓の輪を大きく広げ、会員相互の親睦を深め、むらさき会が前進して行くことをお祈り申し上げます。

来年のむらさき会総会は

五月二十八日(土)

十一時開会

会場 川越プリンスホテル

山村女子高等学校



部活に励む生徒たち

山村国際高等学校



武道場にて

編集後記

多くの皆様のご協力を得て「むらさき会だより・八号」ができました。ありがとうございました。

来年の総会(五月二十八日(土))には、皆さんからたくさんの方に声をかけていただき、お目にかかれることを役員一同楽しみにしております。

むらさき会

平成十六年度役員一覧

- | | |
|-----|-------|
| 会長 | 田中 久子 |
| 副会長 | 伊藤 勲子 |
| 顧問 | 野島 康子 |
| 顧問 | 福島ミヤ子 |
| 顧問 | 山村 寛 |
| 顧問 | 下田 宏吉 |
| 顧問 | 石川 富夫 |
| 事務局 | 小林 豊子 |

むらさき会連絡先

山村女子高等学校

☎ 049-225-3565

〒 350-1113 川越市田町16-2

山村国際高等学校

☎ 049-281-0221

〒 350-0214 坂戸市千代田1-2-23